

「県政ガイドあいち 2023」表紙デザイン審査会講評

総評

伊藤 勇吉 審査員

本年度は、たくさんの作品が集まりとても楽しい審査となりました。「愛知県をどのように表現するか」が楽しみでもあり、難しさでもあります。その中でも個性豊かな表現があり完成度の高いデザインが揃いました。とてもいい審査となりました。

佐藤 直樹 審査員

募集要項に「愛知らしい魅力的なデザイン」とありますが、実に悩ましい一文です。「愛知らしさ」のイメージはおおよそ似通っており（お城、金鯱、招きネコ、なごやめし）、そこに突出した個性を表現することは難しい。ここは「魅力的な」デザインを提示することに眼目がある、と読んでみてください。丁寧に時間をかけて検討と試作を重ね、頭と目と手を存分に働かせた作品こそが、県政ガイドの表紙を飾るにふさわしいものなのです。

田中 篤至 審査員

愛知県ならではの「名物」を若い世代がどう独自の表現をするのか。毎年そのアイデアに驚いています。今年の応募作からは、色彩の統一感を出して構成全体を整理したり、図柄をアイコン化して分かりやすくしたりするなど、さまざまな工夫を感じました。愛知県のロゴマークを入れる前提で構成した作品が少なかったのは課題だと思います。ロゴも応募者の先輩が制作した「デザイン」なので、大切に扱ってほしいと思います。

グランプリ作品講評

伊藤 勇吉 審査員

今回グランプリの作品は、表現に勢いとインパクトのある表紙となりました。パンフレットの表紙としては、とても目を引き印象的なデザインです。細かい所まで愛知県の観光地や特産物などが織り込まれていてグランプリにふさわしい作品です。

佐藤 直樹 審査員

この作品こそ、まさに「魅力的な」デザインが施された素晴らしい一例です。画面全体に描かれた様々な「愛知らしい」モチーフに目新しいものはありませんが、この作品が高く評価された理由は、イラストレーションの完成度とそれをまとめ上げたレイアウトデザインの力量にあります。実に細かい部分にまで作者の目と手が行き届いています。「何を描くか」というよりも、「どのように描くか」が大事であることを体現した作品です。

田中 篤至 審査員

柔らかい色彩やキャラクター化した「愛知県名物」たちのかわいらしさ、迫力感たっぷりの構成で、初見で目を引くデザインだと感じました。大人から子供まで、思わず冊子を手にとってしまうであろう魅力あふれる表紙デザインだと考え、全体トップの採点をしました。キャラクターの大きさをバランスよく配置することで、見る人は表紙全体の隅々まで眺めてしまう作品でした。